

## 早春の成田山

谷 優（成田市）

日 時：2023年3月4日（土）9時30分～12時 天候：晴れ

場 所：成田山公園

参加者：37名（大人31名、子ども6名）、成田市環境課職員2名

担当指導員：晝間、金子、荘子、水野、谷

コロナ前と変わらぬ大人数の参加者となりました。4グループに分かれて出発しました。思わず上着を一枚脱いでしまいたくなるポカポカ陽気。今回の観察会は①成田山参道の隠れた名所スポットの観察、②成田山の歴史遺産の観察、③自然豊かな成田山公園の観察になります。

参道を進むと、まず第1の見所、こんこんと湧き出る井戸があります。成田山の地下を流れる伏流水が自噴していて、この水を使って仕込んだ酒が「長命泉」。ここは道路に面しているのにも関わらず知らない人が多く、参加者も驚いていました。次は、薬師堂。現存する成田山本堂の中では最古のものです。成田山の寺紋は江戸時代までは菊の紋章でしたが、明治になり今の葉牡丹になりました。ただし、キャベツのような葉ボタンではなく菊の葉と牡丹の花を合わせたもの。勉強になりました。

成田山へ続く裏道を進むと、シキミが道の両側に生えていていかにも寺の境内らしい。日陰はまだ蕾ですが、日に当たるところでは早くも白っぽい花が咲いていました。ただし、有毒なので気をつけるようにと説明を受け、参加者は真剣にうなずいていました。釈迦堂、光明堂と2つの旧本堂と額堂を見学、どれも歴史あふれる建物で見応えがありました。最後は、いよいよ成田山公園へ。階段を下りていくと、昼でも薄暗く苔やシダが多く見られます。谷底のような地形になっているので、霧が発生しやすく、湿り気も多いためです。その先は、たくさんの梅がある梅林です。幹には、見事なウメノキゴケが付いています。梅の木は、花とともに枝振りも鑑賞するものですが、ここの梅の木はあまりにもウメノキゴケが付き過ぎ、花があまり咲いていません。「梅の木が心配だね。」「枯れてしまうのでは。」と話していました。

マンサク、サンシュユ、カワヅザクラが丁度見頃で、来て良かったと参加者は思ったことでしょう。「今度、またじっくり歩いてみたい。」という声も聞かれました。



薬師堂で寺紋の説明



苔の観察



満開のカワヅザクラ